

今回のテーマは「町内会を未来へつなぐために」です。

札幌市では、令和5年4月1日より、「札幌市未来へつなぐ町内会ささえあい条例」が施行されました。

この条例では、町内会は地域コミュニティの中核であり、今後も維持されるべき存在であることを、町内会、地域住民、事業者、札幌市が共に認識して共有するとともに、町内会の活動を将来にわたって皆で一体となって

支えていくことで、より豊かで明るく暮らしやすいまちを未来の世代に継承していくことなどが示されています。

町内会を未来へつないでいくために今、市内の町内会ではどのような取組がされているのかをご紹介します。

トピック①

富丘東四町内会

「解散」も考えた町内会 若い世代の力で子どもたちの笑い声が響く町内会に

令和3年度、手稲区の富丘東四町内会は、役員のみならず町内会の解散を考えていました。そこで札幌市の町内会アドバイザー派遣制度を活用して、解散も視野に入れつつ、アドバイザーと一緒に今後の町内会のあり方の検討を始めました。

「解散」を会員のみなさんは望んでいるのだろうか？

「会員のみなさんは、本当に町内会が解散しても良いと考えているのか？」「町内会役員の担い手が不足していることも知らないのではないのか？」ということから、まずは地域住民を対象にアンケートを実施することにしました。

アンケートの結果、解散しても良いという意見は約1割しかおらず、地域住民からは「役員の負担を軽くして町内会を存続して欲しい」という意見が多く出されました。

このような結果を踏まえ、町内会は解散せずに、まずは役員負担を軽減しながら町内会を存続することにしました。

サポーターが町内会再始動の原動力に

同時にアンケートでは、可能な範囲で町内会をお手伝いできる地域住民(=サポーター)を発掘するための項目を設け、4名のサポーターが見つかりました。

サポーターには、町内会活動の企画から参画してもらうことになりました。

令和4年度、役員とサポーターとの交流会を複数回開催し、その中でサポーターより新事業の提案がありました。その提案を元にサポーターと役員が中心となって10月にハロウィンイベントを実施。そこには90人を超える子どもと保護者が参加し、盛り上がりを見せました。

さらに、12月にはクリスマス会が開催され、こちらも50人近い子ども

たちが参加しました。

現在、サポーターの方が総務副部長に就任されており、役員負担の確保にもつながっています。



▲ハロウィンイベントの様子
役員・サポーターで企画したハロウィンイベント。たくさんの親子連れが参加しました。

います。役員の方々の声かけでは新たな担い手がみつからない場合でも、アンケートで担い手不足を知ってもらい、担い手を募集することで新たな人材を発掘できるかもしれません。



▲町内会の会議の様子
町内会の会議には、お子さんを連れて参加するサポーターの姿も。

アンケート調査から始める町内会の活性化

アンケートで新たな人材を発掘し、そのサポーターに新たな企画を任せて活躍してもらうことで、一度は解散まで考えた町内会は、地域の子どもの笑顔があふれる町内会になりました。

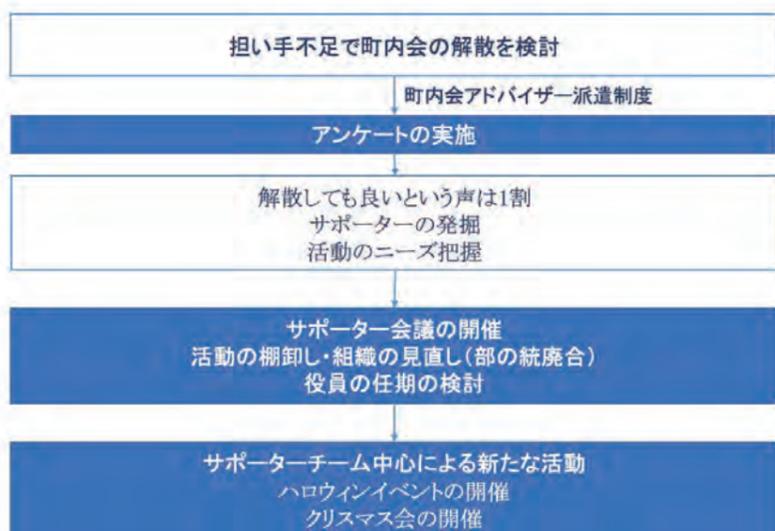
現在、札幌市内の町内会の多くが担い手不足に悩んでいると思

富丘東四町内会

- 加入世帯数：480世帯
- 町内会費：月額500円/世帯 ※除雪費を含む
- 役員：13名

戸建て(約51%)とアパート・マンション(約49%)割合は同程度。アパート・マンションには若い世代の転入がみられる。

富丘東四町内会の検討のフロー



アンケート調査による人材発掘の効果

役員が直接声かけをしてお願ひできる範囲は限られていますが、アンケート調査は町内会と関わりが少ない地域住民にも声をかけることができるため、広く人材発掘につながります。

アンケートは広く人材発掘ができる



地域コミュニティの力が必要
子育て世代など多世代
やれる時にやれる範囲内で
地域に貢献したい

若い世代が求める地域のつながりって？ ～「町内会未来塾+LABO」で出された若い世代のニーズ～

これまでの町内会の活動は急激に進んだ高齢化に対応し、高齢者向けの活動に重きが置かれてきました。多くの町内会で、見守り活動や健康体操などの高齢者を対象とした取組が実施されるようになっていきます。

一方で、若い世代や子育て世代向けの活動は少ない傾向にあります。町内会によっては、高齢者向けの健康体操が隔月で行われているものの、子ども向けの活動は入学祝い金や卒業祝い金だけといった町内会もあるのではないのでしょうか。

若い世代が町内会に求めること

令和4年度、「町内会未来塾+LABO」と題し、若い世代や子育て世代に集まってもらい、町内会

に関して様々な話をする機会を全3回設けました。地域コミュニティやまちづくりに関心がある参加者が多く、その声を聞くと若い世代や子育て世代も地域コミュニティを必要としていることがわかりました。コロナ禍もあってか、若い世代は「孤独」を感じている人が多く、地域の人と気軽に話ができる場所があると良いといった意見が出されていました。



▲町内会未来塾+LABOの様子
第2回の開催はお子さんを連れた参加もあり、楽しくお話しができました。

子育て世代、特に小さなお子さんを抱えている世代からは、「子育てについて気軽に相談できる人が近所にいると良い」や、「少しの時間だけ子どもを見てもらえると助かる」といった意見が出されていました。

人が集うコミュニティの拠点

こうした意見から、若い世代も気軽に集まり、話ができる「地域コミュニティの拠点となる場」が求められていることがわかりました。例えば、「地域食堂」のように多世代が集まり、交流できる活動などを町内会で開催することも考えられます。

また、子育て世代向けには、ミニ子育てサロンのような集まりを町内会館などで開催すると良いかもしれません。

高齢者向けの活動に加えて、若い世代や子育て世代向けの活動を行うことが町内会の関心を高めることに繋がりそうです。



▲町内会未来塾+LABOの様子
子育て世代や若い世代から多くの意見をいただきました。

町内会未来塾+LABO

- 令和4年度に開催。20代～50代を対象に地域コミュニティや町内会について意見交換を行なった。
- 全3回開催し、19名の方にご参加いただいた。

コラム

若い世代と一緒に取り組む町内会のために

町内会を未来へつないでいくためには、次の担い手である若い世代と一緒に取り組んでいくことが不可欠です。そんな若い世代に町内会への関心を持ってもらったり、活動に参加してもらうために動き出す町内会が増えてきています。

子どもたちと楽しめる小さなイベントから始めてみませんか ～スノーキャンドルで子どもたちの笑顔が灯る～

新型コロナウイルス感染症も落ち着きつつあり、活動をひかえていた町内会では、新たな交流事業を検討するところも増えてきていると思います。ただ、まだたくさん人が集まるような行事には不安があったり、活動の自粛が続いたことから、人手もノウハウも不足しているという町内会も多いと思います。しかし、子育て世代や若い世代が最も参加しやすい交流事業がなくなったままでは、町内会への関心を持つきっかけもなくなってしまいます。

そのような中、次年度に活かすための試験的な取組として、新たな取組を始めた町内会があります。白石区の北郷東町内会では、子どもたちや子育て世代が町内会との関わりを感じてもらうために、スノーキャンドルイベントを開催しました。スノーキャンドルは家にこもりがちな冬に親子で楽しくつくることができ、さらに、屋外での活動のため近隣にお住まいの方にも町内会活動を見てもらいやすい取組です。北郷東町内会のスノーキャンド

ルイベントは、たくさん子どもたちとその保護者が参加し、2時間で250個のキャンドルを飾りました。予想以上に盛り上がったため、来年度もぜひ開催したいと北郷東町内会では考えているようです。

コロナ禍前のような大規模な交流事業はできなくても、役員のできる範囲で子どもたちと一緒に楽しめるイベントから始めてみませんか。子育て世代や若い世代の参加のきっかけになるはずです。



▲スノーキャンドルイベントの様子
たくさん子どもたちが参加してくれました。

北郷東町内会

- 加入世帯数：約4,000世帯
- 町内会費：月額600円/世帯
- 役員：30名

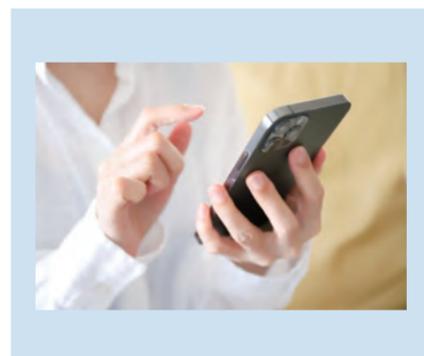
転入者が増加の傾向があり、若い世代が増えている。

若い世代とつながる大切なツール「SNS」を活用しよう ～SNSを活用したスマートな町内会へ～

「町内会のデジタル化」の必要性を感じている町内会も多いのではないのでしょうか。近年、LINEやInstagramなど「SNS」の講習会を開催する町内会が増えてきています。豊平区の平岸四区ゆたか町内会では、役員間でLINEグループを活用した連絡調整をしています。SNSを活用できるようになると、役員間の連絡調整や情報共有が容易になり、働きながらでも役員として活躍できる方が増えるかもしれません。

またLINE公式アカウントの開設も行い、より若い世代に情報が届きやすいように工夫しています。アンケート調査で町内会のサポーターとして手を挙げてくれた20代の会員の方に早速Twitterの運用をお願いしています。役員に

限らず、SNSを教えてくれる、やってくれる若い世代を探してみるということも大切です。まずは苦手意識を持たず、家族と、お友達と、役員同士でSNSを活用しておしゃべりしてみたいはいかがでしょうか。



平岸四区ゆたか町内会

- 加入世帯数：約770世帯
- 町内会費：月額300円/世帯
- 役員：3名

集合住宅が多い。

素敵な

町内会・自治会の取組をお伝えする情報紙

SAPPORO マチトモ通信



このロゴマークは地域の安心と笑顔を支えている町内会をイメージして、札幌市が制作しました。



さっぽろ市
02-D02-23-871
R5-2-648